

定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図												
フリガナ 名称	トンネル 区間		路線名	国道○○号	管理者名	○○河川国道事務所		トンネルID				
所在地	自	東京部○○区○○	定期点検業者	○○○○	定期点検年月日	2019年8月1日		緊急輸送道路 代替路の有無	あり			
	至	東京部○○区○○	定期点検者名	○○○○				トンネル延長	L= 4,346 m			
緯度	36° 06' 25.2"		トンネル 本体工	変状・異常 箇所数合計	材質劣化	II	1箇所	トンネル毎 の健全性	III			
経度	137° 05' 19.0"				漏水	II	1箇所			III	0箇所	IV
緯度	36° 06' 15.8"				外力	II	CSパン			III	0スパン	IV
経度	137° 05' 27.4"											
トンネル変状・異常箇所写真位置図												

注1: 本位置図は、異変した状態を記載すること。
 注2: 覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。
 注3: 写真番号に付する変状番号は、各覆工スパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。
 注4: 横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
 注5: 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。
 ※2 本体工の変状に対しては、健全性の判定区分Ⅱ～Ⅳについて添付すること。また、点検前に実施された措置によりⅠと判定された箇所も添付すること。
 ※3 附属物の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分Ⅱとした箇所のうち応急措置によりⅠと判定とした箇所の数を記入すること。
 ※4 附属物の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう「01」番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。